ベトナム・ハノイ研修（SEKISHO JOB FAIR インターンシップ）報告

１．　概要

ベトナム・ハノイにて、約１週間の海外研修を行った。参加生徒２名については選抜を行い、１名はバイオマス発電に興味があり、植物由来のバイオマスを活用したエネルギー技術の研究をしたい生徒、もう１名は医師を目指し、医療制度やインフラについて、日本と世界各国との比較をテーマに探究している生徒である。

２．　日程

7/28(火)事前研修	関彰商事株式会社 外国籍社員からの研修 多様な文化や価値観への理解を深め、国際感覚を養う活動を行ったり、生徒各自が取り組む探究活動に対し、グローバルな視点から助言を得たりした。 「SEKISHO JOB FAIR」の説明を受けた。
10/16(金)事前説明会	関彰商事下館本社にて、ベトナム海外研修の保護者説明会を行った。
10/28(水)研修１日目	7:00 に成田空港集合、9:30 成田空港発 15:40（現地時間 13:40）ノイバイ国際空港に到着 18:00（現地時間 16:00）宿へ到着、翌日以降の行程確認 夕食：ブンチャー（焼肉入り米粉つけ麺）やネムザン（揚げ春巻き）を食べ、現地の食文化に触れた。
10/29(木)研修２日目	JICA ベトナム訪問 電力部門・医療部門の各担当者より、講義を受けた。参加生徒の各探究テーマに関わる質問に対応していただいた。ベトナムの現状を踏まえた詳細な情報を知ることで、電力・医療それぞれに課題点があること、また、今後数十年の見通しを持ちながら国全体で取り組む必要があることなどを教えていただいた。 日本との違いにも目を向け、社会に必要な電力・医療双方の課題を全体像として捉えることができる時間となった。 Tokyo Human Health Science University Vietnam 訪問 日系の医療大学ということもあり、日本の教育プログラムを起用している点が特徴であった。大学内では、実際に実習を行っている講座を見学し、学生の皆さんが取り組んでいる様子を見ながら、医師・看護師・理学療法士の各部門の教職員から、関連する内容について説明していただいた。 後半は併設する病院内を見学し、医師の方から、ベトナムの医

	療制度の課題などについてご講義をいただいた。実態を知り、課題を克服するためにどのような取り組みが必要になるのかを深く考える時間となった。国レベルでの視点を持つことで、参加生徒の探究しているテーマについて、より良く考察するためのヒントをいただいた。 昼食：フォー（米粉と水で作られた平たい麺を、牛骨や鶏ガラなどの澄んだスープでいただく国民食） Vin University　タンさん訪問 　バナナの皮を活用した発電システムを考案した研究者の方にお会いし、関彰商事社員の方の通訳を介して、質疑応答の時間をいただいた。ハノイ工科大学をご卒業後、Vin University の修士課程履修中である。現在は他国の大学と、再生可能エネルギーについて共同研究開発をしている方であるというご経歴をもとに、バイオマス発電に対する思いや、今後の展望などをお聞きすることができた。 　参加生徒の探究活動において、第一線で研究に従事なさる方から、実験方法や考察内容についての助言を直接いただける貴重な機会となった。 夕食：ゴイクン（生春巻き）、バイン セオ（ベトナム風お好み焼き）
10/30(金)研修３日目	erex international 訪問 　ご担当の方々から、ベトナムの脱炭素に向けたバイオマス事業についてのご講義をいただいたり、生徒からの質問に応えていただいたりした。技術をご担当する職員の方が、東京からオンラインでご講義くださった。ベトナムの概要や、電力の概況をもとにした脱酸素のお話をお聞きしたり、バイオマス発電の考え方について触れたりし、社会全体における再生エネルギーの在り方を深く考えさせるきっかけをいただいた。 　また、参加生徒の素朴な疑問にも丁寧にご対応いただいた。特に、企業としての取り組みを継続することで生じる利点と課題についてお聞きできたことが印象的であった。専門の方々から探究活動における実験のサンプル案についてアドバイスをいただき、その内容を帰国後にさっそく実験に活かすなどでき、大変有意義な時間であった。

	Well Be Vietnam 訪問 担当の方々から、ベトナムの医療制度についてのご講義を受けた。特に、ベトナムは日本の制度とは大きく異なる面が多々あり、興味深い情報をたくさんいただいた。ご講義では、日本人を中心とした他国からの駐在者向け保険制度を充実させることで、安心安全に海外業務にあたることができる社会の実現を目指しているという企業理念を知ることができた。 生徒から活発な質疑が飛び交うなどし、丁寧に応対していただいた。昨日の研修場所である医療系大学、病院と合わせて情報を整理することで、複数の切り口から医療を多角的にみることの重要性を感じた。 午後　「SEKISHO JOB FAIR」の運営準備@ハノイ工科大学 夕食　関彰商事株式会社の社員の方々と会食 社員の皆さまと共に、伝統的なベトナム料理を堪能した。
10/31(土) 11/1(日) 研修４・５日目	「SEKISHO JOB FAIR」の運営補助活動 企業受付や誘導など運営の補助活動をしながら、企業説明会の雰囲気を体感した。出展した日本企業の熱量やベトナムの大学生の意欲を直に感じることができた。 夕食　フォー（屋台）ナイトマーケット散策
11/2(月)研修６日目	ハノイ周辺の観光 旧市街、セント・ジョセフ大聖堂、ホアンキエム湖など見学
11/3(火)研修７日目	0:25 ノイバイ国際空港を出発 7:15 成田空港着後、解散

３．　活動の様子

JICA ベトナム訪問	Tokyo Human Health Science University Vietnam 訪問
	

医師の方から、幅広い観点での研修	看護師養成の講座についての説明
	
Vin University　タンさんとの研修	研究についての思いをお聞きした
	
erex international 訪問	東京本社からオンラインでご講義いただく
	
Well Be Vietnam 訪問	医療保険についての講義、質疑応答
	

ジョブフェアの会場となったハノイ工科大学にて	ジョブフェア企業受付業務の補助
	
全行程同行してくださったハンさんとお別れ	セント・ジョセフ大聖堂を案内してくださったトゥさんと見学
	

４．　生徒の声

▼参加生徒１

今回の研修では、各企業へ訪問したり、「SEKISHO JOB FAIR」でインターンシップさせていただくことで、実際に現場で働く方々から、仕事内容や仕事に対する思いや現地での取り組みについて、直接お話をお聞きしたりする機会がありました。日本で普段生活しているだけでは、決して知ることのできない数々の新たな発見があり、自分自身の視野を大きく広げることができました。現場の雰囲気や働く人々の熱意に直接触れたことで、社会に関わるさまざまな分野に対する理解がより一層深まり、多くの刺激を受けました。

特に印象に残っているのは、「SEKISHO JOB FAIR」での経験です。運営スタッフの方や、参加されている企業の方など、多くの方々と自分から積極的にコミュニケーションを取ることを意識しました。受け身ではなく自ら行動を起こすことで、貴重なお話をたくさん聞くことができ、学校だけでは得られない体験や、新たな学びや発見につながったと実感しています。これからの学校生活や日々の生活においても、自分から一歩を踏み出す積極性が大切であると気付かされました。

この研修で得た貴重な発見や新しい視点は、今後の学習やさまざまな活動に活かすことはもちろん、将来社会人になってからも、多様な人々との関わりを大切にし、新しいことに挑戦したり、困難を乗り越えたりする際の大きな原動力にしていきたいと考えています。今回の経験

を十分に活かすことで、自分自身の成長につなげ、今後の学校生活や進路選択につなげていきます。

▼参加生徒２

私はこの研修に参加し、印象的だったことが２つあります。

まず、医療分野を扱う企業や日系の大学病院への訪問です。ベトナムの医療に関する基本情報や、保険制度について学んだり、大学病院の院内見学においては、医療器具や入院するスペースなどを確認したりしました。現場の医師の方にも直接お話をする機会が得られ、ベトナムの医療が目指す姿についての思いをお聞きしたり、自分自身の探究テーマに関わる内容についてご助言をいただいたりすることができました。医療における日本とベトナムの現状の違いなどにも触れることができ、今後大変貴重な機会となりました。

次に、「SEKISHO JOB FAIR」のインターンシップです。スタッフとして会場の案内や来場者の対応などを担当し、現地の学生や企業の方々と直接関わる貴重な経験をしました。言語や文化の壁を感じながらも、円滑な運営を目指し、周囲の方々と協力したことで、イベントを支える側の視点や責任の重さを実感しました。

研修全体を通して最も学んだことは、自分とは異なる背景や考えを持つ相手の視点に立ち、物事を捉えることの難しさと大切さです。日本とは大きく異なる環境の中で、多くの刺激を受け、自分自身の視野を広げることができ、大変有意義な経験となりました。この経験を活かし、自分の進路に役立てるとともに、将来は地域の発展にも貢献できるよう努力します。